



【 真の平安が必要な時 】

今日の聖書本文: ルカの福音書 8 章 22-25 節/暗唱聖句: ヨハネの福音書 14 章 27 節

説教者: 鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)**1. 真の平安が必要とされている時代**

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間も主の平安の中でお元気でしたか。イスラエルの人たちはイエス様の時代も、今もあいかわらず、よく“シャーロム”というあいさつをしています。これは‘あなたに神様の平安があるように’という意味です。その意味で、まず、回りの教会の家族に‘シャーロム’と言いながらあいさつをまわしましょうか。(平安、平和(ギリシャ語の聖書には: エイレイネ)は英語の聖書だと全部 peace の意味で使われています。)

新年年明けて仕事が始まって忙しくなっている会社員にも、子供の世話に追われる主婦も、また、何とか学年期末を忙しく過ごしている学生や進学や進路で忙しい学生も、それぞれみんな心の平安を求めています。けれども、正直に言って、平安よりもあせりや心配、そして、ストレスを感じることの方が多というのが現実ではないでしょうか。我々がどれくらいストレスに親(した)しんでいるかわかりません。すべての人がストレスにさらされ、緊張を余儀なく(よぎ)されています。統計によると、アメリカ全体で一日当たり15トンものアスピリン(鎮痛剤)が消費されているそうです。前も紹介したように精神安定剤の売り上げも最も販売記録を達成していますし、続けて今も急増しています。過度なストレスは健康に害を与え、癌、脳梗塞などのような体の深刻な病気を発生する原因になるだけではなく、うつなどさまざまな精神的な病を招いていると言われるのはいやになるほど聞かされてうんざりします。今我々に一番求めているものが真の平安ではないでしょうか。自分の方法が一番正しいと主張しながら競争しつつ提示している平安になれる様々な人による方法や何か薬物や物による感情的な、一時的な平安ではありません。

私は聖書の中で、最も好きな箇所の一つは、ガリラヤ湖で舟に乗った主イエスキリストと弟子たちが嵐に見舞われてしまう場面です。この話を覚えておられるでしょうか。今日のルカの福音書 8 章 22-25 節にこの話の詳細に書かれています。特に興味深いのは、主イエスが荒れ狂(くる)う嵐の中で眠っておられたことです。弟子たちの反応を見れば、その嵐がどれほど激しいものであったかが分かります。弟子たちの何人かは元漁師でしたから、嵐は何度も経験していたはずですが、にもかかわらず、この嵐を無事に乗り切れるとは到底思えなかったのです。この嵐のただ中で、そして舟の上での混乱にもかかわらず、主イエスキリストはぐっすりと眠っておられました。なぜそれほど安心していられたのでしょうか。それは、弟子たちが知らなかったある事実を知っておられたからです。すなわち、すべてが神の支配のもとにあるということをご存じだったのです。しかし、現実はまだそのようには見えなかったことでしょう。主イエス様の一言で嵐はぴたりとやんでしまいます。この出来事から、弟子の中で一人ペテロは夜ぐっすりと眠る秘訣を学び取ったようです。使徒の働き 12 章に数年後、弟子ペテロはヘロデ王にとらえられ、刑の執行を持つ身となりました。ペテロが死刑にされる前の晩、神様は彼を救い出すために御使いを送られました。ところが、御使いは、寝ていたペテロを起こすために彼のわき腹をたたかなければなりません(7節)。ペテロはそれほどぐっすりと、赤ん坊のように眠っていたのです。なぜそんなことができたのでしょうか。それはペテロが、彼の人生を導いておられる主に信頼していたからです。これこそ本物の平安ではないでしょうか。

2. 私たちに必要な3種類の平安

聖書には3種類の平安が書かれています。一目に、“霊的な平安”があります。霊的な平安とは、‘神様との平和’のことです。ローマ人への手紙 5 章 1 節には、“ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエスキリストによって、神様との平和を持っています。”と書かれています。これが平安の土台であり、要(かなめ)なのです。他のどんな平安を得ることよりも、まず神との平和を得る必要があります。皆さんはすでにこの平安を得ておられるでしょうか。この平和を得る道はただ一つしかありません。それは、イエスキリストを通して、キリストにあつて得られるのです。

今日もみなさんはイエスキリストによる神の平安を求めていますか。あの有名なピリピ人への手紙4章6-7節には“何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。4:7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。”最初に順番に注目してください。最初に祈りがあって、その次の平安が来るということです。ここには因果関係(いんがかんけい)が成立しています。祈りが原因であり、平安はその結果なのです。つまり、祈らなければ思い煩うようになるでしょう。思い煩い(心配)とは何と役にたたない、無駄な感情でしょう。思い煩いは平安の対極(たいきよく)にある感情であり、両者は同時には成立しません。心配(worry)と意味は窒息(ちっそく)するという意味ですが、さまざまな心配、思いわずらいがみなさんを窒息させないように祈りをもってまず、神の平安を求めましょう。

二つ目に、“心の平安”です。この心の平安とは“神様から来る平安”です。私たちは、まず“神との平和”つまり“霊的な平和”を得て初めて、“神様から来る平安”つまり“心の平安”を得ることができるのです。コロサイ人への手紙3章15節には“キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。”ここで“支配するように”と訳されているギリシャ語は、聖書の中ではこの一つ箇所だけにつかわれており、“審判を下す”という意味があります。つまり、神様から来る平安を自分の人生の審判員にせよ、ということです。みなさん、審判員の仕事は何ですか。すべてが順調に、そしてルールが円満に行われ、バランスが崩れないように努力することではないでしょうか。このように神様は、私たちの心の内に審判員を送り、すべてが混乱しているように思われる時でさえ、私たちが心の平安を保つことができるようにしてくださるのです。我々は心の平安がなければ、いくらハワイのリゾートでサンテンをしながらといっても、わずらい、悩みが頭、心を支配して人生の息が苦しくなるのではないのでしょうか。ですから、霊的な平安と心の平安が我々には必要なのです。

三目に、“関係における平安”です。聖書ではこの平安を、“人との平和”だと呼んでいます。ローマ人への手紙 12 章 18 節には“あなたがたは、自分に限る限り、すべての人と平和を保ちなさい”と書かれています。人間関係に平和がもたらされれば争いは減るでしょう。人間関係がストレスの原因になっていることは、だれもが認めることではないでしょうか。ほとんどの人は、人間関係の問題こそ最大の問題だという考えに同意すると思います。この人間関係のさまざまな問題やストレスに取り組んでいるうちに、平安が奪い取られてしまいます。私たちは、どれほど切実に霊的な平安、心の平安、関係における平安を必要としているのでしょうか。しかし、果たしてどうすれば祈り求める以外にも具体的にこの真の平安を抱くことはできるのでしょうか。

3. 真の平安を得るための実践すべき具体的な方法

①平安に関する神様の御言葉を通して神様の約束を理解し、覚える必要があります。ヨハネの 14 章 27 節には、キリストが私たちに与えられた約束が記されています。“私は、あなた方に平安を残します。私は、あなたがたに私の平安を与えます。私があなた方に与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。”キリストがこの言葉を語られたのは、十字架にかかる直前のことでした。その後も復活のイエス様はエマオという村に行く道で落胆している弟子たちに会った時にも“あなたがたに平安があるように”と祝福されました(ルカ 24:36)。そして弟子たちが集まって恐れている時にもイエス様は現され(ヨハネ 20:19-21.;26)まず、平安の挨拶をされました。“あなたがたに平安があるように”ことです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん、この一連の御言葉を通して悟られるポイントは何でしょうか。キリストの平安が贈り物であるという点に注目できるのではないのでしょうか。ですから、平安は、人間の努力をしたり、お金をはらったりしてえられるものではありません。また、自分の心構えや頑張りによって手に入れるものでもありません。真の平安は差し出されたものをただ受け取るという、無償の主からのお贈りものなのです。

また、キリストが与える平安は世が与えるのとは違う、とも言われています。愛するみなさん、この世の平安は、もろくも壊れやすい平安ではないですか。この数年間で世界の中に戦いや戦争のなかった日があった日があったと思いますか。

イギリスロンドンの国際法協会(Society of International Law)がこのような研究書を出した事があります。世界の人類の

歴史始まった以来、何の戦争もなく世界が平和の時代だったのはたった8%に過ぎなかったという話でした。約4千年前から今日まで、世界が平和だったのはたったの268年だけだったそうです。この内容が教えてくれるのはこの世の平和は一時的なものに過ぎないのです。

しかし、神の平安は周囲の状況に左右されないのです。神様の平安があれば、苦難のただ中であっても心穏やかにすごすことができます。神様の平安は決して抽象的な概念のようなものではありません。もっとも日々の生活の中で経験し、感じ、味わえることができる具体的な神様からの約束のある贈り物であることを覚えて行くことです。

ですから、**平安を手に入れたいと願うなら、まず、私たちは神の御言葉である聖書を通して、書かれている神の平安を約束と原則を理解し、その御言葉通りに実践する必要があります。**

詩篇ではこう言われています。“**あなたのみおしえを愛する者には豊かな平和があり、つまずきがありません**(詩篇119:165)。” みなさんは日々、聖書を開いていますか。神様の御言葉の約束と原則を覚え、従う事!それこそ、平和の神様と歩調を合わせて生きることになり、それによって神の平安がもたらされると神様は約束されているのです。

愛するみなさん！何か新しい物を買ってもはじめての物か、よく分からない時は、まず、入っている取扱(とりあつかい)説明書をよく参考にしてください。なぜでしょうか。長持ちしたいし、その新しい物の機能を身につけ、そのものが持っている機能を十分に生かせるためではないでしょうか。みなさんももうご存知のように神の御言葉は、私たちの人生の取扱説明書のようなものです。不安や心配の中でも、そこには、真の平安の道だけではなく、健康、経済、結婚、人間関係、仕事、この他人生のさまざまな事柄に関する神の約束とその原則が書かれています。私たちはこれらの原則を相変わらず知っていながら、無視することもできます。しかし、これらの神様の約束と原則に従わなければ、平安を経験することはできないでしょう。私たちが聖書の中に書かれている人生に対する神様の設計に従うときこそ、より平安のうちにスムーズな人生を送ることができるのです。急なトラブルが起こっても落ち着いてふさわしく智恵ある反応ができるでしょう。簡単にシンプルなことではないでしょうか。日々神様からの真の平安を手に入れたいと願うなら、日々神様の約束と原則のある神の御言葉に注目し、従う実践の上に与えられる神様の贈り物であることを忘れないで下さい。

②神様の赦しを受け取りましょう。

平安を手に入れたいと願うなら、神様の赦しを受け入れなければなりません。赦しとは、**刑罰(けいばつ)を免除(めんじょ)**されることです。多くの人たちにとって、平安を破壊する最大の原因は**罪責感**であることがわかります。罪責感があると、いつも過去の出来事に捕らわれ、追い立てられているように感じます。だれかに知られたらどうしよう、この秘密がばれたらどうしようと心配して、心が落ち着かないのです。新聞にときどき書かれるように、‘事件から正直に言えなくて数十年も地獄のような生活を送ってきた。すべて告白して楽になりたい’と。

愛するみなさん、**こころの平安を保つ唯一の方法は、責められるところのない心を持つことです。**そして、そのような心を与えることができるお方は、神様以外にはおられません。旧約聖書のミカ書7章18節にはこう書かれています。“**あなたのような神が、他にあるでしょうか。あなたは、咎を赦し、。。そむきの罪を見過(す)ごされ、怒りをいつまでも持ち続けず、慈しみを喜ばれるからです。**”預言者ミカという人は、神様が私たちの過去の汚点(おてん)をきれいにすることを心から願い、しかも喜んでそうしてください、そうすることをおもちわびておられると言っているのです。神様は大きな消しゴムをもっていると言った人がいます。聖書にはこう書いてあります。“**もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます**”(ヨハネの手紙第一1:9)。神の赦しは今も受け取ることができます。神様の赦しは今日も有効です。ですから、もし罪責感があるなら、もしまだ清められた良心をもっていないなら、今日、今、すべてを知っておられ、見ておられる神様の御前で告白し、神の赦しを受け取ることによって真の神様の平安を頂けるクリスチャンプレイズチャーチのみなとなりますように切にお祈り申し上げます。

③どんな場合にも神様の目的を信じ、共におられる神のご臨在に焦点を合わせることで。

神様の平安を体験したいと願うなら、どんな場合にもかならず神様の目的を信じなければなりません。

自分に起こる物事が理解できなくても私たちは神の目的を信じる必要があります。箴言3:5-6節に、“**心を尽くして主に**

拠(よ)り頼(た)のめ。自分の悟りにたよるな。あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。”私たちは神様から人生のまことの平安を保つためにはより頼むことしかできないのです。この御言葉に“自分のさとりにたよるな”という命令も同じ意味です。自分の力で人生を直そうと、解決しようとししないで下さい。これまでずっと、そのようにやって来た我々ではありませんか。私たちはいつも神様を信じますと言いながらも実は逆にそうなりがちです。しかし、私たちは何とか自分の力で解決しようとして、いくら時間やエネルギーを無駄にして来たのでしょうか。

結局、私たちがこの世の中で作ろうとしたことってちょっと時間が立てば過ぎ去ることじゃなかったのでしょうか。だから神様はまた過ちの繰り返しにならないようただ神に信頼しなさいと言われるのです。“**どうして神様は自分にこのことが起こるのを許されたのだろうか**”と考えるのをやめて、**かならずこの出来事にも神様の目的があることを信じ、信頼して見て下さい。**すると、“私は神様に信頼したときになってやっと心に平安が訪れたのです。”と告白することができますと信じます。

私が少しずつ学んでいる人生の教訓の一つは次のことです。**神のなさることについて、“なぜ”、“どうして”“いつ”などの疑問が湧いてきても、それに対する答えをすべて理解する必要はない！**ということでした。私のやるべきことはただ一つ、**神の平安を得るために神に信頼することだ**ということでした。あるでき事が起こった理由を何とか理解しようと自分で頑張っているうちは、本当の意味で神様に信頼しているとは言えないと思いますし、その状態では平安を得ることも出来なかったことをよく経験して来ました。自分の人生と愛する人たちの人生について、私たちはただ神様の目的を信じ、認めて、信頼しなければなりません。たとえそれが、自ら招いてしまった問題や心痛、苦難であったとしても、神様はすべてを用いて私たちの人生に対する目的を全うされるのお方であることを覚えて信じて下さい。神は、**今日も私たちに望んでおられることは、自分で物事のすべてを理解しようとせず、ただ神様を認め、信頼することなのです。**みなさんは今神様がすべてを支配しておられるという事実を認めていますか。平安を手に入れたと願うなら、**どんな場合にも神様の目的を信じ、そして、いつもともにおられる神のご臨在に焦点を合わせなければならない**ことです。神様は、いつも私たちとともにいてくださることを知り、その神様を自覚する必要があります。愛する信仰の家族のみなさん！よみがえられ今も生きておられる主イエスキリストは今ここで、何をしておられると思いますか。あなたと共にいてくださり、またあなたを決して見捨てないと約束してくださっているからです。

詩篇の著者は、“**神はわれらのさけ所、また力。苦しむとき、そこにある助け。(詩篇46:1)**”と書き記しています。同じ詩篇の後半部分では、“**静まって、わたしこそ神であることを知れ(10節、口語訳)**。”と語っています。どんなに見込みがないように見えても、神様は私たちの力であり、困難なときにはいつでも助けの手を差し伸べてくださるのです。その神様の前で“**静まれ**”記されています。この“静まれ”の原語の意味は“**緊張を和(やわ)らげる、手放す**”という意味の言葉です。つまり、私たちの問題のほとんどは、静まるできないということに原因があるのです。静かに神様の前でひざまずいて心から主に焦点を合わせたのはいつのことだったのでしょうか。みなさんは忙しさの中で個人的にし詰まって神様のご臨在に焦点を合わせていますか。<静まれ>という言葉に続いて、主は“**わたしこそ神であることを知れ**”と語っておられます。振り替えてみてください。神様を知ろうとしてた時に味わった平安と喜びは世の中いくらお金を払っても来る一時的な平和とは違います。“**人のすべての考えにまさる神の平安があなたがたの心と思いをキリストイエスにあって守ってくれます(ピリピ4:7)**”

メッセージを終わらせたいと思います。愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！真の平安とは、人生の嵐のただ中にあっても心安らかにいられることなのです。今日みんなから平安を奪い去っているものは何でしょうか。だれが罪責感であるなら、神に立ち返って赦しを求めましょう。もしそれは心配でしょうか。経済的な問題、健康の問題、難しい人とのことでしょうか。それがどう問題であっても、すべてキリストに話し、知っていただくことが出来ます。イエスキリストにすべてを話せば気持ちが楽になるばかりでなく、何よりも、キリストご自身がその問題に対してすばらしい解決と平安を与えてくださるのです。ますますストレスや不安な時代の中で主の御言葉を握り締めて、そのイエスキリストからの真の平安を頂き、保って歩むクリスチャンプレイズチャーチ全信仰の家族となりますように切にお祈り申し上げます。アーメン。